

問われるコロナワクチンの開発・供給・分配体制

異例の速さで承認され接種に進んだコロナワクチン。

各国が特別プログラムで開発を促した結果だが、

先進国と途上国間でのワクチン確保の格差、

人々の接種意識向上など、世界的収束への

「最適解」を導き出す、難しい舵取りは続く。

日本で新型コロナの初の感染者が確認されてから一年が経過したが、世界各地で感染は全く衰える様子を見せない。ドイツのメルケル首相は新年早々、新型コロナの感染拡大を抑えるための規制を再び強化すると発表、イギリス・ロンドンでも変異ウイルスの感染拡大を抑えるため、新たなロックダウンに入った。日本でも年明けに一都三県を対象に緊急事態宣言が発令された。誰もが一刻も早い感染収束を願う中で、現時点での唯一の頼りはワクチンである。昨年、アストラゼネカ、ファイザーが高い有効性を示すワクチンの開発に成功、一二月にはイギリスとアメリカで相次いで緊急使用許可を得て接種が開始された。さらにバレーン、カナダ、サウジアラビア、メキシコでも認可され、接種がスタートした。中国、ロシアもそれぞれ国産ワクチ

東京都立大学教授
詫摩佳代

たくま かよ 二〇一〇年東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学。博士（学術）。東京大学東洋文化研究所助教、関西外国語大学外国語学部専任講師などを経て現職。著書に「国際政治のなかの国際保健事業」「人類と病」など。

ンを開発、中東や中南米、東南アジアに供給している。一連の動きは、新型コロナの収束あるいはウイルスとの共生に向けた明るい兆しだと言えるが、ワクチンの供給や普及に関しては、いまだに多くの課題が存在する。本稿では今年一月時点での新型コロナワクチンをめぐる状況を俯瞰した上で、ワクチンに関する今後の課題を展望してみたい。

新型コロナワクチンの開発をめぐる状況

一般的に、ワクチン開発は容易ではない。不活化ワクチンをはじめとする従来のワクチンの場合、ウイルスを入手してからでないと開発に取りかかれず、開発から製品化までには五〜一〇年以上を要することが一般的であった。また、そもそもワクチンが存在しないものも少なくない。一九八一

年に米国でエイズ症例の最初の報告がなされて以降、四〇年を経ようとする今も、有効なワクチンは存在しない。

このような中で異例ともいえる速さで登場したのが新型コロナウイルスワクチンである。ファイザー、モデルナ社のワクチンはいずれも細胞内の遺伝物質（mRNA）を人工合成して作られたワクチンであり、ウイルスの遺伝情報（塩基配列）がわかれば開発・製造することができると。また、mRNAはウイルスが変異しても容易に複製でき、短い期間で開発や製造ができるというメリットがある。mRNAを利用した新しい技術の恩恵であることに加え、未曾有の緊急事態に直面して先進各国が製薬会社にワクチン開発のための支援を行ったことも、スピード開発を容易にした一因であった。例えば、米トランプ政権は新型コロナワクチン開発促進策「オペレーション・ワープ・スピード・プログラム」を、ドイツ政府もワクチン研究開発促進に関する特別プログラムを展開した。中国、ロシアも昨夏、それぞれが臨床試験の最終ステージを飛ばす形で、国産ワクチン開発に成功したと発表、緊急使用承認を行った。

ワクチンへのアクセス・接種意識の課題

他方、今後ワクチンの接種や供給を進める上では、多く

の課題が存在する。第一の課題は、アクセスに大きな偏りがあることだ。医薬品として販売される以上、各国の購買力の差がアクセスの格差を生む。先進国の中には、国民に五回以上接種できる量のワクチンを確保している国もある。他方、途上国では新型コロナの影響で通貨安と財政難の危機が高まっており、適切な国際支援がなければワクチン調達もままならない。NPO法人オックスファムによれば、世界人口の約一三%を占める先進国が、有望な新型コロナウイルスワクチンの五一%を独占している状態にあるという。

医薬品へのアクセス格差は今までもしばしば見られた。例えば一九九〇年代初頭にエイズの抗ウイルス薬が登場したが、感染者の多いアフリカで広く入手できるようになるまで約七年を要した。二〇〇四年H5N1インフルエンザに際しても、WHOによる公平アクセスに向けた働きかけは失敗、〇九年H1N1インフルエンザに際しては、ワクチンが先進国に買い占められ、余剰分が途上国に供給された。

ワクチンに関する第二の課題は、輸送に関する問題である。mRNAワクチンは摂氏マイナス七〇度以下という超低温で保存する必要があり、遠隔地への輸送はもちろん、先進国の病院でも超低温で保管する設備は十分には整えら

れていない。超低温設備に加え、国際航空運送協会（IATA）の見積もりによれば、全世界へのワクチンの輸送には、大型ジェット機八〇〇台相当が必要とされる。こうした問題ゆえに中東地域では、中国産不活化ワクチンの方が好ましいとの見解も一部で示されている。

ワクチンに関する第三の課題はワクチン不信の問題である。感染収束に導くには、人口の七〇～九〇%の人がそのウイルスに対して免疫を獲得することが必要だと言われている。アメリカ政府の新型コロナウイルス対策チームのアンソニー・ファウチ博士も、二〇二〇年二月のインタビューでそのように述べている。他方、新型コロナウイルスの早すぎる開発、フェイクニュースの拡散、ワクチンの政治利用の動きなどの影響で、欧米ではワクチン接種を拒否する動きも広がっている。新型コロナウイルスが入手可能になった場合に接種すると答えた人の割合は、二〇年秋から冬にかけてフランスで五九%↓五四%、アメリカで七二%↓六四%と軒並み減少した。特にアメリカでは、トランプ大統領が大統領選前にワクチンの実用化を目指すなど、ワクチン問題が政治化されてきた経緯があり、国民の間でワクチン不信がはびこるきっかけとなった。

過去にも、新しいワクチンの安全性への懐疑や、デマの

拡散、損害賠償制度の未整備を理由に、ワクチン接種が進まない事例はたびたび見られてきた。コンゴではエボラワクチンに関する根拠のないデマが広まり、接種をためらう動きが見られたし、フィリピンでは一六年以降に展開された Dengue 熱ワクチン接種プログラムにより、重大な副作用が確認され、その経験が新型コロナウイルスに対する国民の姿勢にも影を落としている。〇九年 H1N1 インフルエンザの際には、途上国では副作用の損害賠償制度が整わず、副作用への不安から接種を拒む動きも見られた。安全性と有効性を示すデータの公開、政府から国民への丁寧な説明などを通じ、製造元と政府、国民の間に円滑なコミュニケーションを図ることが不可欠といえる。

ワクチンの公平アクセスに向けた国際的取り組み

以上、三つの課題の中で第一の課題、すなわち新型コロナウイルスワクチンの公平アクセスをいかに確保するかは喫緊の課題である。この問題をめぐっては、史上初の公平供給を目指す枠組み COVAX ファシリティが成立した。COVAX は加盟国が約二〇〇億ドルを共同出資し、候補ワクチンを複数回払い込み、二〇二二年末までに WHO の事前承認を受けた二〇億回分の安全で効果的な新型コロナウイルスを

提供することを目指すグローバルパートナーシップである。参加国は自国の公費で国民のワクチンを確保できる国（高・中所得国）とそうでない国（低所得国）に分けられ、高中所得国はワクチン開発や製造設備整備に使われる拠出金を前金として支払い、その資金によって製造費をわずかに上回る価格で、人口の二〇％相当分を上限にワクチンを確保することができる。一方で途上国に関しては、各国のODAやドナーからの拠出金により、ワクチンを供給・輸送する枠組み（COVAX AMC）が設けられている。

COVAX AMCに関しては、昨年末にビルアンドメリンダゲイツ財団、EU、カナダ、ノルウェーらが追加の拠出・貸付を約束、当初の目標額を超える資金が集まり、今年上半年にもCOVAX AMCを通じてワクチンが供給可能となる見込みである。また昨年末、米国からGAVIワクチンライアンスに対して約四〇億ドルを二一年度に拠出し、公平アクセスの実現に役立てられることも決まった。バイデン次期政権下で米国の関与が強まり、公平アクセス実現に向けた動きが加速化する可能性は十分にある。

また、上述の通り、過去、途上国ではワクチン副作用に関する損害賠償制度が未整備であることを理由に、ワクチン

ン接種が進まなかった事例があった。その反省を生かして、COVAXでは途上国向けのワクチン副作用損害賠償基金が設立された。米国のリーダーシップが欠如し、各国の自国第一の動きが目立つ中でも、ワクチンの公平アクセスに向けた枠組みは着実に前進してきたのであった。

アクセス格差が国際政治秩序に与える影響

他方、制度が整えられたからといって、ワクチンをめぐる問題を完全に樂觀視できるわけではない。COVAX AMCには、供給に必要な資金は集まったが、肝心のワクチンがどれだけ確保できるのか、不透明な部分が多い。ワクチンへの公平なアクセスが叶わないと、国際秩序の観点からいくつかの影響が予想される。第一は感染収束や世界経済回復の遅れが生じるということである。米国ノースイースタン大学の研究室が二〇億本のワクチンがあると仮定し、①先進五〇カ国が独占する場合と、②各国の人口に応じた平等な割合に分配する場合の二つのシナリオを比較したところ、①は②に比べて二倍以上の死者数が出て、感染が収束しないという結果を出した。またユーラシアグループは、ワクチンへの公平なアクセスが確保されない場合には、先進国には向こう五年間、何十億ドルもの経済

的損失が生じるだろうとのシミュレーション結果を発表、デューク大学グローバルヘルス研究所も、公平アクセスが実現されなければ、先進国に約一二〇億ドル余りの損失をもたらすだろうとの試算を発表している。イギリスの非営利研究機関RAND EUROPEによれば、先進国がワクチンの公平アクセスに向けて投資すれば、投資額の約四倍の経済的見返りをもたらすだろうとの試算を発表している。人道的な観点のみならず、感染収束や世界経済回復といった実質的な観点からもワクチンへの公平アクセスが必要であることが示された形だ。

ワクチンへのアクセス格差がもたらす第二の影響は、途上国と先進国の対立の助長である。世界貿易機関(WTO)の会合でも、インドと南アフリカは新型コロナワクチンに関する強制実施権を認め、安価なワクチン製造を可能にするべきだと主張、大手製薬会社を有するスイス、英米などは反対の姿勢を維持、新型コロナワクチンに関わる特許権の扱いをめぐる先進国と途上国の対立が続いている。この問題に関しては、非政府組織も先進国に圧力をかけており、WTOには昨年二月初め、約九〇万人の署名が届いた。今後、接種が進む先進国と、そうでない途上国の格差が広がれば、国家間の不信や対立を押し広げる可能性も否定で

きない。

ワクチンへのアクセス格差がもたらす第三の影響は、中国の台頭である。COVAXがうまく機能するか否かは不透明な部分も多く、その不安を埋め合わせる形で、中国とロシアが国産ワクチンを途上国に輸出している。例えば、中国の李克強首相は昨年八月にメコン開発協力の加盟五カ国に対し、中国産ワクチンを優先的に供与する約束をした。この時までには中国は、ブラジル、インドネシア、フィリピンにも優先供給を約束していた。ワクチンはマスクよりも希少価値が高く、供与と引き換えに、南シナ海での行動に支持を得るなど、外交ツールとして機能させる意図もあるとされる。一〇月には、中国の王毅外交部長がインドネシアのルフット海洋・投資担当調整大臣との会談の中でインドネシアにおけるワクチンの研究、生産、供給を支援する意向を示した。年末にかけては中南米、中東にもワクチンの売買契約を結び、二月にはアラブ首長国連邦(UAE)やバーレーンで中国産ワクチンの承認が行われた。中国はモロッコやエジプトにワクチン製造工場を設置し、地域の供給拠点とすることも視野に入れているとされる。

他方、中国産ワクチンに関しては、その安全性や有効性を裏付けるデータが十分に公開されておらず、万が一、有

効性に問題があった場合は効かないワクチンを接種していることとなり、収束に向けた努力に影を落とすことになりうるとの指摘もある。

国益と公益のバランスをいかに取るか

経済力や技術力に格差がある国際社会において、新型コロナウイルスへのアクセスに関しても格差が生じることは致し方ないことだろう。特に、危機的な状況に立たされる各国が、何よりも自国民分のワクチンを確保しようと努めることは国家として当然の行動であろう。問題は、そうした国益確保の姿勢と国際公益維持のバランスを、この危機の最中にあって、いかに図っていくかということである。購買力と技術力で優位に立つ先進国がより早くにワクチンへのアクセスを果たすことははや致し方ないものと捉えられるだろうが、他方、使い切れない量のワクチンを確保している先進国がそのワクチンを使い切ることなく廃棄するような事態は避けねばならないし、ワクチンに余剰が出たら、入手できない国の医療従事者など接種を優先されるべき人々に行き渡らせる努力も必要だろう。それは人道的な観点からというよりも、すでに述べた通り、一刻も早い収束と経済の回復という恩恵を自国にもたらしてくれる点

にも注意が必要だ。すでにEUやカナダは、確保したワクチンの一部を途上国に寄付し、行き渡らせる取り組みを始めている。

これに加え、COVAXの確実性を少しでも高めていく努力も引き続き、必要だろう。中国は昨年九月にCOVAXに参加することを表明したが、具体的にどのような貢献をするのかはまだ明らかになっていない。象徴としての参加ではなく、実質的な関与を引き出していくための呼びかけが必要だろう。また、ロシアは未加盟だし、米国も現状では未参加である。こうした国々に公平アクセスの重要性を説き、参加を呼びかけること、ワクチンの公平アクセスの重要性を確認するような国際会議の招集も、日本には期待されるだろう。

中国・ロシア産ワクチンを国際的に利活用するための法整備も今後の課題の一つだ。中国・ロシア産ワクチンに関しては、現状ではデータや情報が少なく、安全性や有効性に不透明さが残る。だからこそ、その承認プロセスを国際機関や国際専門家パネルなどの多国間枠組みに委ね、より厳格な承認プロセスを経るべきだという見解もある。そのようなルール作りに向けて、主導的な役割を果たすことも日本には求められている。 ●